



ゆめちから栽培研究プログラム

樟蔭中学校・高等学校
ゆめちから栽培研究チーム
Fl-Ours

【グループ名にのせた思い】

Full + Ours → Fl-Ours



「私たちの小麦栽培の研究で、小麦をいっぱいになりたい」

【目的】

「グルテン含量の多い小麦を育てる」

【仮説】

止葉期に与える肥料の量を
2倍に増やす
→グルテン含量が増える

【施肥計画】

1. 基肥期(播種前)
2. 起生期(麦踏み後、葉が起き上がってきた時期)
3. 止葉期(葉の成長が止まってきた時期)

☆研究区⇒**基準区の2倍の量を2回に分けて施肥**

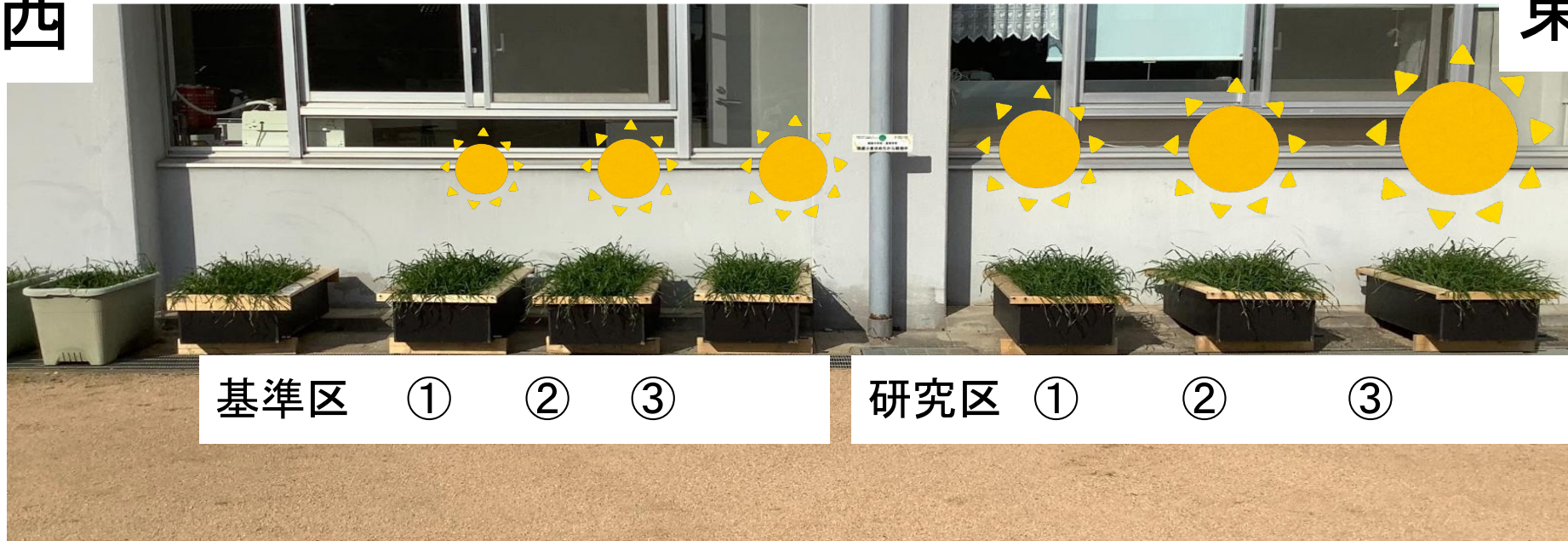
	基肥期 (g)	起生期 (g)	止葉期 (g) 1回目	2回目	合計 (g)
基準区	10	18	12	—	40
研究区	10	18	12	12	52
施肥日	2021年 10月18日	2022年 2月26日	2022年 4月20日	2022年 4月26日	—

【生育環境】

日当たりを考えて、校舎の南側に設置した。
校舎の陰に隠れ、基準区のほうが早く、西日が当たらなくなった。

西

東

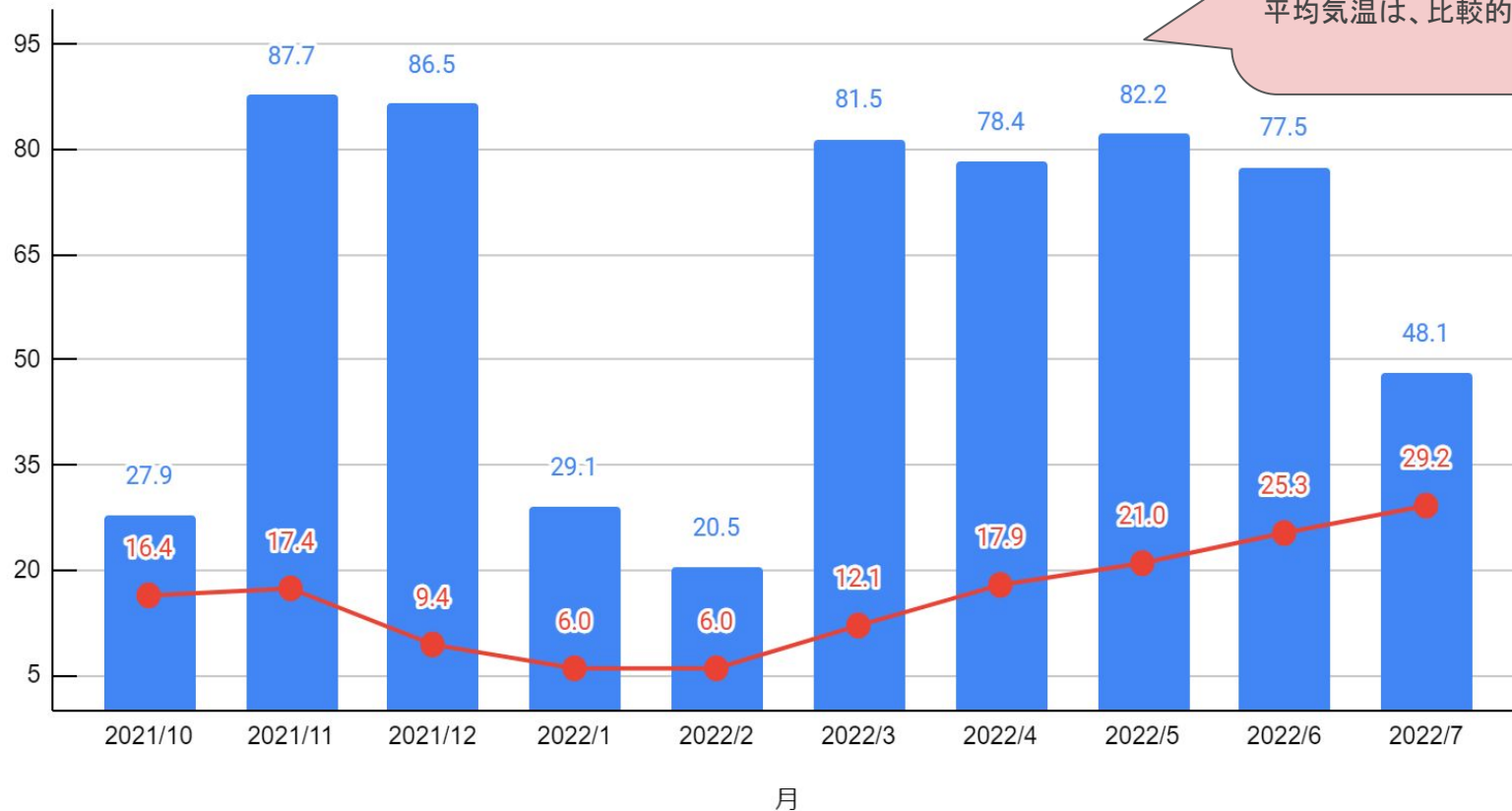


1 か月あたりの総降水量 と平均気温

■ 総降水量 (mm) ● 平均気温 (℃)

播種後(10月)
起生期～出穂期(3月～6月)
雨が多く降った

平均気温は、比較的 **低かった**



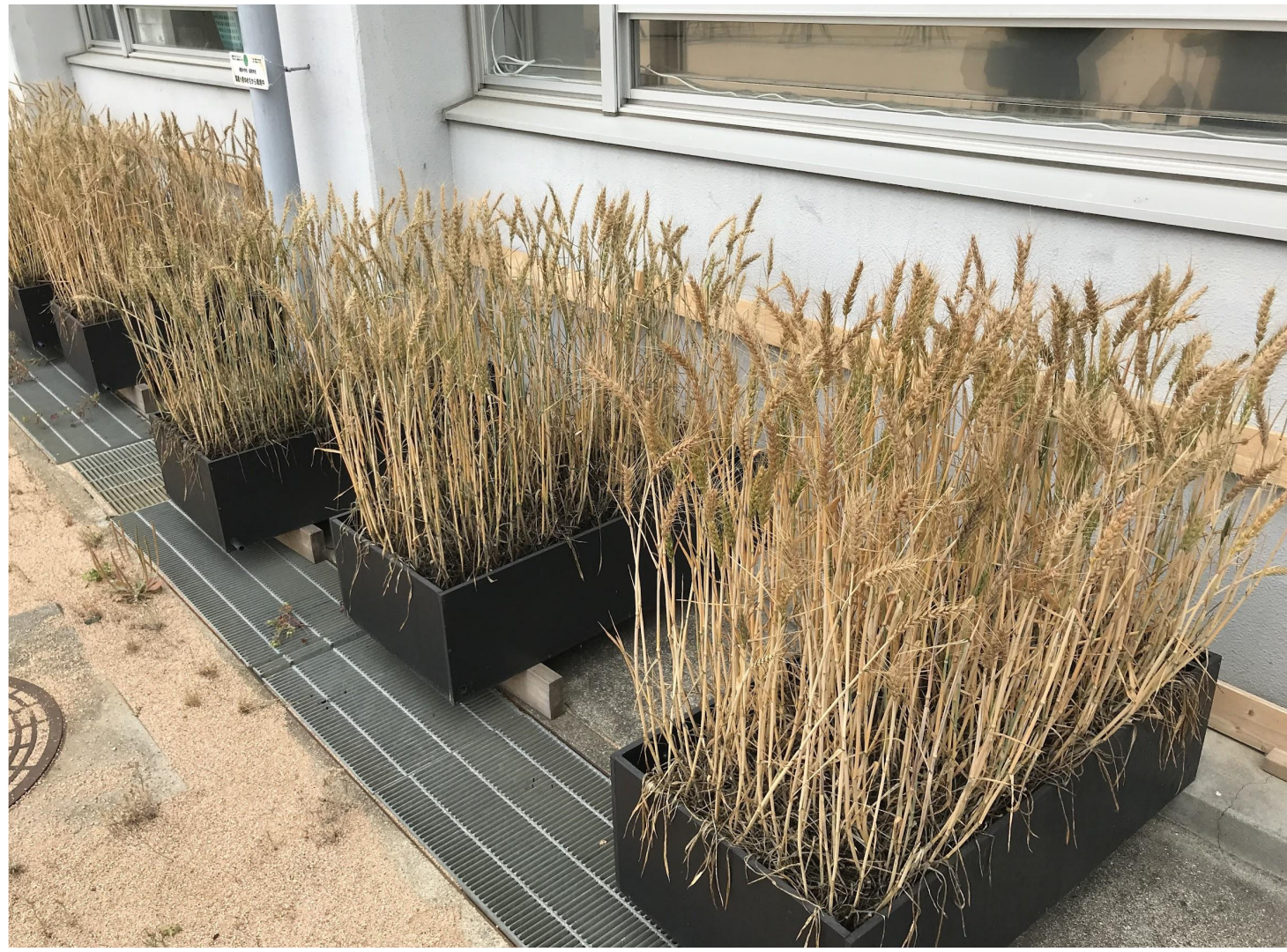
【成長記録】

コムギ縞萎縮病
か、、、??



病気ではなく、
過剰繁茂 & 栄養不足





結果

A:全粒量(g)

Aの平均

B:グルテン(タンパク質)含量(%)

Bの平均

基準区①

①

全粒量

基準区<研究区

79.0

21.5

基準区②

21.3

21.0

基準区③

②

全粒量:1番多い

グルテン含量:1番少ない

128.1

2

①

グルテン含量

基準区≒研究区

2

研究区①

110.8

21.5

20.1

研究区③

197.3

17.1

【考察①】

全粒量が研究区の方が多い

⇒**止葉期の施肥による効果。**

グルテン含量の増加にはつながらなかった

⇒**施肥のタイミングが遅く、肥料が小麦の生長に使われなかった。**

【考察②】

研究区③の全粒量が最も多い(同じ条件の研究区①②より多い)

⇒**日照時間が他より長かったことに起因する。**

研究区③のグルテン含量が1番少ない

⇒**全粒量が多い分、1粒当たりのグルテン含量の割合が少なくなった。**

【今後の展望】

- ・研究区③の結果から、日射量と全粒量の関係を調べる。
- ・畑栽培とプランター栽培の生長の違いを比べる。

プランターの小麦より、粒が大きく、身が詰まった感じでした。



FI-Ours



ご協力くださったリバネスの方々、敷島製パンの方々、
ありがとうございました